

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第5115956号
(P5115956)

(45) 発行日 平成25年1月9日(2013.1.9)

(24) 登録日 平成24年10月26日(2012.10.26)

(51) Int.Cl.

A 4 5 D 33/00 (2006.01)

F I

A 4 5 D 33/00 6 5 O E

請求項の数 8 (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2007-121216 (P2007-121216)	(73) 特許権者	000140915
(22) 出願日	平成19年5月1日(2007.5.1)		株式会社カツシカ
(65) 公開番号	特開2008-272304 (P2008-272304A)		東京都葛飾区西新小岩3丁目20番8号
(43) 公開日	平成20年11月13日(2008.11.13)	(73) 特許権者	592042750
審査請求日	平成22年4月19日(2010.4.19)		株式会社アルビオン
			東京都中央区銀座一丁目7番10号
		(72) 発明者	松岡 克實
			東京都葛飾区西新小岩3丁目20番8号
		(72) 発明者	松岡 和夫
			東京都葛飾区西新小岩3丁目20番8号
		(72) 発明者	安藤 利章
			東京都中央区銀座一丁目16番7号株式会社アルビオン内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 粉状化粧料容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

白粉、パウダーファンデーション等の粉状化粧料(100)を収容する有底筒状の化粧料収容室(11)を設けた本体(1)と、該化粧料収容室(11)上面を覆い、シリコンゴム等からなる軟弾性材料で構成され、伸長方向に交差するよう形成される複数の切れ込み(51)を設けた軟弾性仕切り部(4)と、前記化粧料収容室(11)に係合または嵌合する固定部(95)および粉状化粧料(100)を取り出す開口部(91)および軟弾性仕切り部(4)を前記本体(1)との間で挟持する挟持部(93)より構成される仕切り部固定部材(9,10)とを有する粉状化粧料容器において、

パラフィン紙やプラスチックフィルム等の伸縮のないフィルムで構成されたバージンフィルム(7)を前記軟弾性仕切り部(4)の外周(53)上に、軟弾性仕切り部(4)と共に挟持させ、該バージンフィルム(7)が前記軟弾性仕切り部(4)の伸縮変形を抑え、切れ込み(51)の開穴を防止し粉状化粧料(100)が軟弾性仕切り部(4)の外周(53)側へ漏出しないようにしたことを特徴とする粉状化粧料容器。

【請求項 2】

白粉、パウダーファンデーション等の粉状化粧料(100)を収容する有底筒状の化粧料収容室(11)を設けた本体(1)と、該化粧料収容室(11)上面を覆い、シリコンゴム等からなる粘性を有する粘弾性材料で構成され、伸長方向に交差するよう形成される複数の切れ込み(51)を設けた粘弾性仕切り部(5)と、前記化粧料収容室(11)に係合または嵌合する固定部(95)および粉状化粧料(100)を取り出す開口部(91

10

20

）および粘弾性仕切り部（５）を前記本体（１）との間で挟持する挟持部（９３）より構成される仕切り部固定部材（９，１０）とを有する粉状化粧料容器において、

パラフィン紙やプラスチックフィルム等の伸縮のないフィルムで構成されたバージンフィルム（７）を前記粘弾性仕切り部（５）の外表面（５３）上に粘弾性仕切り部（５）の粘着力により粘着保持させ、該バージンフィルム（７）が前記粘弾性仕切り部（５）の伸縮変形を抑え、切れ込み（５１）の開穴を防止し粉状化粧料（１００）が粘弾性仕切り部（５）の外表面（５３）側へ漏出しないようにしたことを特徴とする粉状化粧料容器。

【請求項３】

軟弾性仕切り部（４）または粘弾性仕切り部（５）の外表面（５３）外周側に挟持部当接突起（５９）が形成され、当該挟持部当接突起（５９）がバージンフィルム（７）の位置決め可能にすると共に前記仕切り部固定部材（９）の挟持部（９３）に当接し化粧料収容室（１１）を密閉することを特徴とする請求項１、請求項２いずれかの項記載の粉状化粧料容器。

10

【請求項４】

挟持部（９３）が仕切り部固定部材（１０）の下面外周側に沿うように環状の仕切り部当接突起（９７）を形成し、当該仕切り部当接突起（９７）がバージンフィルム（７）の位置決め可能にすると共に前記軟弾性仕切り部（４）あるいは粘弾性仕切り部（５）の外表面（５３）に当接し化粧料収容室（１１）を密閉することを特徴とする請求項１、請求項２いずれかの項記載の粉状化粧料容器。

【請求項５】

20

軟弾性仕切り部（４）、あるいは粘弾性仕切り部（５）が化粧料収容室（１１）の外側に嵌合する収容室嵌合部（５７）を有する有天筒状をなし、化粧料収容室（１１）の外側部よりずれないようにすると共に化粧料収容室（１１）を密閉することを特徴とする請求項１、請求項２、請求項３、請求項４いずれかの項記載の粉状化粧料容器。

【請求項６】

バージンフィルム（７）が軟弾性仕切り部（４）、あるいは粘弾性仕切り部（５）の全ての切れ込み（５１）を覆うように形成される被覆部（７１）と、該被覆部（７１）の外周に帯状に突出するように形成されるつまみ部（７３）からなり、

該つまみ部（７３）を被覆部（７１）の表面（７５）中心側に折り曲げることにより先端部が仕切り部固定部材（９，１０）の開口部（９１）より突出し、若しくは粘弾性仕切り部（５）に粘着していない部分を設け、仕切り部固定部材（９，１０）の開口部（９１）から除去できるようにしたことを特徴とする請求項１、請求項２、請求項３、請求項４、請求項５いずれかの項記載の粉状化粧料容器。

30

【請求項７】

バージンフィルム（７）がパラフィン紙等の防湿紙で構成され、被覆部（７１）とつまみ部（７３）との境界で被覆部（７１）につまみ部（７３）の幅を延長するよう切れ目（７９）を形成し、

つまみ部（７３）を上方に引くことによりバージンフィルム（７）を容易に破け、除去できるようにしたことを特徴とする請求項６記載の粉状化粧料容器。

【請求項８】

40

バージンフィルム（７）の被覆部（７１）が、仕切り部固定部材（９，１０）の開口部（９１）より小形状であることを特徴とする請求項２記載の粉状化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、粉状化粧料を収容する粉状化粧料容器であって粉状化粧料が不用意に飛散することのない粉状化粧料容器に関する。

【背景技術】

【０００２】

従来白粉、パウダーファンデーションなどの粉状化粧料をパウダーパフに取って使用す

50

るコンパクト容器等が知られている。コンパクト容器は網状フィルターや複数の粉取り出し穴を設けた仕切り部にパウダーパフを載置してコンパクト容器を傾けるなどしてパウダーパフ等に少量の粉状化粧料を取り出して使用するものである。

【0003】

そのため網状フィルターや小径の粉取り出し穴を有する仕切り部を設けた粉状化粧料容器では容器を軽く振るまたは傾けるのみで粉状化粧料を仕切り部上に不用意に流出してしまう。こうした不具合をなくすために未開封商品、非使用中の粉状化粧料容器では穴や隙間のない密閉蓋で粉状化粧料の不用意な漏出を防止し、化粧に際し網状フィルターや小径の粉取り出し穴を設けた仕切り部に代えていた。

【0004】

しかし、繰り返し使用可能な密閉蓋は部品点数が増える上に使用に際し粉状化粧料容器への取り付け取り外しの手間が必要になる。それにもかかわらず密閉蓋の取り付け取り外し操作が必要で密閉蓋の裏面に付着する粉状化粧料のために周囲を汚してしまう。

【0005】

こうした問題を解決する手段として特許文献1が提案されている。また仕切り部を伸縮させて切れ込みを開閉可能にし、必要時にのみ粉状化粧料を仕切り部上に移動可能にする手段として特許文献2が提案されている。

【0006】

【特許文献1】特開2005-103106号公報

【特許文献2】特開2005-7093号公報

【0007】

特許文献1はバージンフィルム用のリングを取着したコンパクト容器で、小径の粉取り出し穴を複数設けた仕切り部にアプリケーションを載置収納している。そして出荷する商品に対してコンパクト容器は仕切り部の上面に化粧料の漏洩を防ぐと共に容易に取り除けるバージンフィルムを被覆しパフとの間を遮断している。

【0008】

特許文献2は仕切り部に化粧料収容室の内外を貫通する複数の切れ込みを設けたものである。仕切り部は軟弾性材料で形成され、軟弾性材料が伸長し切れ込みを開穴する事で粉状化粧料を仕切り部上に移動可能にする

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

特許文献1で用いられるバージンフィルムは商品の未開封、未使用を確認すると共に内容物の量、品質を保証する。同時に粉状化粧料の仕切り部からの漏出を防止するものである。

【0010】

そのため粉状化粧料の仕切り部に使用されている網目や小径穴を有するフィルターはバージン用部材として使用するには不向きである。そこで仕切り部に網目や小径穴を有するフィルターを使用する場合は、出荷搬送に際しバージンフィルムや中蓋形式の漏出防止用カバー等に代え粉状化粧料の漏出を防止していた。そして粉状化粧料の初使い時にバージンフィルムまたは漏出防止用カバーを除去しフィルターを装着し使用していた。

【0011】

網状フィルターや小径の粉取り出し穴を有する仕切り部を使用する場合、粉状化粧料が粉状化粧料容器や容器周囲に使用の度に散り汚してしまう。こうした不具合がバージンフィルムを剥がした後にも頻繁に生ずる。こうした問題を解決するには再使用可能な漏出防止用カバーを利用することも考えられるが、使用毎に漏出防止用カバーを取り去る操作が必要になり使い勝手が悪くなる上、部品点数も増加してコストアップの要因となっていた。

【0012】

他方特許文献2で示される軟弾性材料で構成された仕切り部は、外部からの押圧力によ

10

20

30

40

50

って生ずる伸びで切れ込みを開穴するもので、押圧力のない状態では粉状化粧料の漏出を防止する。しかし、コンパクト容器の搬送時の振動等で粉状化粧料が伸縮する仕切り部の内面側にぶつかり粉状化粧料の漏出を完全に防止できる保証はない。

【 0 0 1 3 】

本発明はこのような問題点に鑑みてなされたものでその目的とするところは、粉状化粧料の不用意な漏出を防止すると共にバージンフィルムを取り除くことで仕切り部の伸縮を可能にし、粉状化粧料を仕切り部上に取り出せる粉状化粧料容器を提供しようとするものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 4 】

本発明粉状化粧料容器は、上記目的を達成するため仕切り部が開閉可能な複数の切れ込みを設けた弾性材料で構成される。さらに未使用の粉状化粧料容器を構成する仕切り部の外面にバージンフィルムを添設することで仕切り部の伸縮変形を抑え、切れ込みの開穴を防止するものである。なお、本願において嵌合とは嵌着、緩嵌、螺嵌、咬止をも含むものと解釈する。

【 0 0 1 5 】

すなわち白粉、パウダーファンデーション等の粉状化粧料 1 0 0 を収容する有底筒状の化粧料収容室 1 1 を設けた本体 1 と、シリコンゴム等からなる軟弾性材料で構成され伸長方向に交差するよう形成される複数の切れ込み 5 1 を設けた軟弾性仕切り部 4 と、パラフィン紙やプラスチックフィルム等の伸縮のないフィルムで構成され軟弾性仕切り部 4 の外面 5 3 上に添設されるバージンフィルム 7 と、粉状化粧料 1 0 0 を取り出す開口部 9 1 および軟弾性仕切り部 4 とバージンフィルム 7 を前記本体 1 との間で挟持する挟持部 9 3 および化粧料収容室 1 1 に係合または嵌合する固定部 9 5 より構成される仕切り部固定部材 9 , 1 0 と、を有し、バージンフィルム 7 が前記軟弾性仕切り部 4 の伸縮変形を抑え切れ込み 5 1 の開穴を防止し粉状化粧料 1 0 0 が軟弾性仕切り部 4 の外面 5 3 側へ漏出しないようにするものである。

【 0 0 1 6 】

また白粉、パウダーファンデーション等の粉状化粧料 1 0 0 を収容する有底筒状の化粧料収容室 1 1 を設けた本体 1 と、シリコンゴム等からなる粘性を有する粘弾性材料で構成され伸長方向と交差するよう形成される複数の切れ込み 5 1 を設けた粘弾性仕切り部 5 と、パラフィン紙やプラスチックフィルム等の伸縮のないフィルムで構成され粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 上に粘着されるバージンフィルム 7 と、粉状化粧料 1 0 0 を取り出す開口部 9 1 および粘弾性仕切り部 5 を前記本体 1 との間で挟持する挟持部 9 3 および前記有底筒状の本体 1 に係合または嵌合する固定部 9 5 より構成される仕切り部固定部材 9 , 1 0 と、を有しバージンフィルム 7 が前記粘弾性仕切り部 5 の伸縮変形を抑え切れ込み 5 1 の開穴を防止し粉状化粧料 1 0 0 が粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 側へ漏出しないようにするものも良い。

【 0 0 1 7 】

さらに軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 外周側に挟持部当接突起 5 9 が形成され、挟持部当接突起 5 9 がバージンフィルム 7 の位置決め可能にすると共に前記仕切り部固定部材 9 の挟持部 9 3 に当接し化粧料収容室 1 1 を密閉するものである。

【 0 0 1 8 】

また、挟持部 9 3 が仕切り部固定部材 1 0 の下面外周側に沿うように環状の仕切り部当接突起 9 7 を形成し、仕切り部当接突起 9 7 がバージンフィルム 7 の位置決め可能にすると共に軟弾性仕切り部 4 あるいは粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 に当接し化粧料収容室 1 1 を密閉するものも良い。

【 0 0 1 9 】

さらに軟弾性仕切り部 4 、または粘弾性仕切り部 5 が化粧料収容室 1 1 の外側部に嵌合する収容室嵌合部 5 7 を有する有底筒状をなし、化粧料収容室 1 1 の外側部よりずれないようにすると共に化粧料収容室 1 1 を密閉するものである。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 0 】

また、バージンフィルム 7 が軟弾性仕切り部 4、または粘弾性仕切り部 5 の全ての切れ込み 5 1 を覆うように形成される被覆部 7 1 と、被覆部 7 1 の外周に帯状に突出するように形成されるつまみ部 7 3 からなり、つまみ部 7 3 を被覆部 7 1 の表面 7 5 中心側に折り曲げることにより先端部が仕切り部固定部材 9 , 1 0 の開口部 9 1 より突出し、若しくは粘弾性仕切り部 5 に粘着していない部分を設け、仕切り部固定部材 9 , 1 0 の開口部 9 1 から除去できるようにするものである。

【 0 0 2 1 】

さらにバージンフィルム 7 がパラフィン紙等の防湿紙で構成され、被覆部 7 1 とつまみ部 7 3 との境界で被覆部 7 1 につまみ部 7 3 の幅を延長するよう切れ目 7 9 を形成し、つまみ部 7 3 を上方に引くことによりバージンフィルム 7 を容易に破け、除去できるようにすることも良い。

10

【 0 0 2 2 】

さらにバージンフィルム 7 の被覆部 7 1 が、仕切り部固定部材 9 , 1 0 の開口部 9 1 より小形状であることも良いものである。

【 発明の効果 】

【 0 0 2 3 】

本発明粉状化粧料容器にあっては次に記載する効果を奏する。すなわち軟弾性仕切り部 4、または粘弾性仕切り部 5 は長さ数ミリメートル程度にカッティングされた複数の切れ込み 5 1 が設け、パフ等のアプリーケータ 2 0 0 で押圧される位置を中心に弾性的に伸長することにより切れ込み 5 1 を開穴する。また軟弾性仕切り部 4、または粘弾性仕切り部 5 の押圧を解除すると開穴されていた切れ込み 5 1 は弾性的に元の形状に復元開穴され粉状化粧料 1 0 0 の移動を阻止する。そのため軟弾性仕切り部 4、または粘弾性仕切り部 5 の内面から粉状化粧料 1 0 0 が不用意に取り出されることはなくなり、外蓋（図示しない）の開閉操作等で飛散することもなくなる。

20

【 0 0 2 4 】

バージンフィルム 7 はパラフィン紙やプラスチックフィルム等伸縮のないフィルムからなり未開封の粉状化粧料容器における軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 に添設または粘着される。バージンフィルム 7 の添設または粘着は、軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の伸びを抑え未開封の粉状化粧料容器に強い振動や衝撃が加わった場合でも切れ込み 5 1 が不用意に開穴することを防止する。

30

【 0 0 2 5 】

仕切り部固定部材 1 0 に形成される仕切り部当接突起 9 7、および仕切り部固定部材 9 の外面 5 3 に形成される挟持部当接突起 5 9 は、化粧料収容室 1 1 を密閉し、粉状化粧料 1 0 0 が化粧料収容室 1 1 の上縁 1 3 および外側部 1 9、化粧料収容室 1 1 に嵌合する収容室嵌合部 5 7 の内周および外周に沿った隙間から漏出することを防止する。

【 0 0 2 6 】

収容室嵌合部 5 7 は化粧料収容室 1 1 の外側部 1 9 に嵌合することで軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の化粧料収容室 1 1 の外側部 1 9 からのずれを抑える。軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 のずれ抑えは軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 上に添設されるバージンフィルム 7 の皺、緩みの発生を防止する。また化粧料収容室 1 1 の外側部 1 9 に嵌合する収容室嵌合部 5 7 は本体 1 と仕切り部固定部材 9 , 1 0 との間に軽く挟持される深さとする事でさらに化粧料収容室 1 1 を密閉する。

40

【 0 0 2 7 】

また仕切り部固定部材 1 0 に形成される仕切り部当接突起 9 7、軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 に形成される挟持部当接突起 5 9 は、化粧料収納容器の組み立てに際しバージンフィルム 7 の位置決めをする。

【 0 0 2 8 】

バージンフィルム 7 の表面 7 5 側に折り返されるつまみ部 7 3 は仕切り部固定部材 9 , 1 0 の開口部 9 1 から指先で摘み引っ張れるようにしたもので、バージンフィルム 7 を軟

50

弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 から容易に除去できるようにする。またバージンフィルム 7 に形成された切れ目 7 9 はパラフィン紙等の防湿紙で構成されるバージンフィルム 7 を一定方向に破けるようにし、初使用に際し軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 外面 5 3 より容易に除去できる効果がある。なおバージンフィルム 7 の周縁が仕切り部固定部材 9 , 1 0 の挟持部 9 3 に挟持される寸法はフィルムの強度にも左右されるが 1 ~ 5 ミリメートル程度で設定される。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 2 9 】

図 1 は本発明粉状化粧料容器主要部の組み立て断面図である。図において本体 1 は中央に粉状化粧料 1 0 0 を収容できるよう上部を開口する有底状の化粧料収容室 1 1 を有しており、上端に平滑な上縁 1 3 を形成している。軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 、バージンフィルム 7 は化粧料収容室 1 1 の開口側を形成する上縁 1 3 を封口する。化粧料収容室 1 1 の底部 2 1 の中央には化粧料充填口 1 7 が設けられ、化粧料収容室 1 1 の開口側を閉口した状態で底部 2 1 側から粉状化粧料 1 0 0 を充填できるようにしている。封止片 1 5 は化粧料充填口 1 7 を封止し粉状化粧料 1 0 0 を収納する化粧料収容室 1 1 内を密閉する。

10

【 0 0 3 0 】

図 2 は本発明粉状化粧料容器の組み立て説明図である。本体 1 を構成する化粧料収容室 1 1 の上縁 1 3 には軟弾性仕切り部 4 、または粘弾性仕切り部 5 の内面 5 5 が密着され化粧料収容室 1 1 を閉口する。図において軟弾性仕切り部 4 はシリコンゴム等の軟弾性材料で構成され、粘弾性仕切り部 5 はシリコンゴム等からなる粘性を有する粘弾性材料で構成され、天井面を閉じた有天筒状をなし、図 3 に例示するように軟弾性仕切り部 4 、粘弾性仕切り部 5 の中央に向かう伸長方向に交差する複数の切れ込み 5 1 が形成される。

20

【 0 0 3 1 】

切れ込み 5 1 は軟弾性仕切り部 4 、粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 と内面 5 5 との間を貫通するスリットで、軟弾性仕切り部 4 、粘弾性仕切り部 5 の中心近傍が押圧伸長の大きさに応じ開穴される。切れ込み 5 1 の開穴は粉状化粧料 1 0 0 が軟弾性仕切り部 4 、粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 と内面 5 5 との間で自由な移動と共に外面 5 3 への取り出しを可能にする。尚、切れ込み 5 1 は図 3 に示すような同心円に配置されることに限定されるものではなく軟弾性仕切り部 4 、粘弾性仕切り部 5 の中心から渦巻状に配置することは勿論、切れ込み 5 1 を星形状に配置するなどの手段も良い。さらに切れ込みの角度を軟弾性仕切り部 4 の伸長方向に交差する範囲で任意に選択する手段を採用することも良い。

30

【 0 0 3 2 】

また軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の側面は垂下して筒状の収容室嵌合部 5 7 が形成される。収容室嵌合部 5 7 は化粧料収容室 1 1 の外側部 1 9 に嵌合し位置決めされる。ここに嵌合とは螺着、嵌着、咬合等が含まれる。他方軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 にかかるアプリケーション 2 0 0 の押圧力を解除すると軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 は復元し切れ込み 5 1 は閉穴する。従って切れ込み 5 1 は、非使用若しくは携帯時など、アプリケーション 2 0 0 から押圧力が加わらない状態においては完全に閉穴され、化粧料収容室 1 1 と外部とを隔離する。

40

【 0 0 3 3 】

また挟持部当接突起 5 9 は軟弾性仕切り部 4 、または粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 で仕切り部固定部材 9 の挟持部 9 3 直下に環状に設けられ、バージンフィルム 7 の位置決めと共に挟持部 9 3 に密着して化粧料収容室 1 1 と仕切り部固定部材 9 との間を密封する。

【 0 0 3 4 】

バージンフィルム 7 はパラフィン紙やプラスチックフィルム等伸縮のないフィルムで形成され、平面説明図である図 4 のように被覆部 7 1 とつまみ部 7 3 を構成する。被覆部 7 1 は環状の挟持部当接突起 5 9 内に収まる大きさに形成され軟弾性仕切り部 4 、または粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 上に気密性を持たせるよう被覆し、化粧料収容室 1 1 内の粉状化粧料 1 0 0 は勿論、吸湿による粉状化粧料 1 0 0 の固形化を妨げる。また、つまみ部 7

50

3は被覆部71の外周に帯が突出するように形成され、さらに図2に示されるように被覆部71の表面75側で中央に向けて折り曲げられる。なおバージンフィルム7がパラフィン紙のように容易に破ける素材で形成される場合、帯状のつまみ部73を被覆部71内に延長するように切れ目79を形成し破け易い方向を形作ると良い。

【0035】

仕切り部固定部材9は図2に示されるとおり上部中央に開口部91、開口部91に隣接する外周下面に挟持部93、側部に構成される固定部95より構成される。開口部91は軟弾性仕切り部4の外周53を押圧し切れ込み51を開穴すると共に粉状化粧料100を取り出せるよう開口する。また挟持部93は軟弾性仕切り部4、および外周53上に添設されるバージンフィルム7を化粧料収容室11の上縁13との間で挟持する。また固定部95は仕切り部固定部材9と本体1とを一体に固定するもので、図1に示すように本体1の外周に螺着、嵌着等により固着する。

【0036】

以上の構成において、バージンフィルム7は表面75側からの人為的な押圧力あるいは振動等に起因する化粧料収容室11内の粉状化粧料100の暴れで軟弾性仕切り部4は内面55側から押圧力を受ける。伸縮性のないパラフィン紙、プラスチックフィルム等をバージンフィルム7に使用し軟弾性仕切り部4の外周53に添設することで軟弾性仕切り部4の強度はバージンフィルム7に間接的に補強され伸縮は小さくなる。したがって軟弾性仕切り部4に形成された切れ込み51は搬送時の振動程度では閉穴状態を維持される。そのためバージンフィルム7と軟弾性仕切り部4の間に粉状化粧料100が溜まる原因がなくなり初使用でバージンフィルム7を除去する際に粉状化粧料100が飛散し周辺を汚してしまうといった不具合がなくなる。

【0037】

またパフ等のアプリケータ200をバージンフィルム7上に載置する場合も、軟弾性仕切り部4はバージンフィルム7を介して伸縮されることから軟弾性仕切り部4の内面55側への伸びは防止される。そのため軟弾性仕切り部4に形成された切れ込み51は開穴されず、化粧料収容室11内の粉状化粧料100は外周53の側への漏出はない。したがって軟弾性仕切り部4とバージンフィルム7の間に粉状化粧料100が入り込まずバージンフィルム7の開封時に粉状化粧料100が飛散することはない。

【0038】

なお、粘弾性仕切り部5を使用する場合、粘弾性仕切り部5はバージンフィルム7が外周53に粘着し直接補強される。そのため粘弾性仕切り部5は伸縮性のないバージンフィルム7と一体になって伸縮されることから両者の間に隙間は生じない。また粉状化粧料容器に外部から押圧力や衝撃が加わる場合は勿論、粉状化粧料容器の振動によって粘弾性仕切り部5が振動する場合でも粘弾性仕切り部5とバージンフィルム7との間に隙間は生じない。さらにバージンフィルム7を粘着する粘弾性仕切り部5の伸びは単独の場合に比べ小さくなり切れ込み51は開穴しない。そのため仕切り部5とバージンフィルム7との間に粉状化粧料100が溜まることはなく、バージンフィルム7の開封時に粉状化粧料100が飛散することはない。

【0039】

また粘弾性仕切り部5を使用する場合、バージンフィルム7を粘弾性仕切り部5の外周53に粘着し貼り付けることができる。しかし、バージンフィルム7は粘弾性仕切り部5に粘着固定されることからバージンフィルム7を仕切り部固定部材9、10との間で挟持する必用はない。したがって被覆部71を仕切り部固定部材9、10の開口部91内に収まる形状にすることもできる。この場合仕切り部固定部材9、10を本体1に装着後にバージンフィルム7を装着することができる上、バージンフィルム7の装着後であっても粉状化粧料容器を解体せずに変更することを可能にする。

【0040】

図5は本発明にかかる断面説明図で図2に示した軟弾性仕切り部4または粘弾性仕切り部5の外周53に仕切り部当接部材9の挟持部93に当接する挟持部当接突起59を設け

10

20

30

40

50

た構成に対し、仕切り部当接部材 1 0 に軟弾性仕切り部 4 または粘弾性仕切り部 5 の外面 5 3 に当接する仕切り部当接突起 9 7 を設けたものである。仕切り部固定部材 1 0は図示されるように挟持部 9 3 に設けた仕切り部当接突起 9 7 を収容室嵌合部 5 7 の直上に位置するように設けているが、形状等の制約により僅か内側で化粧料収容室 1 1 の上縁 1 3 直上にかかることを拒むものではない。挟持部 9 3 に対し仕切り部当接突起 9 7 を設ける場合バージンフィルム 7 は不安定な固定にされがちであるが挟持部 9 3 に軽く接着することにより組み立て作業をし易くできる。また仕切り部固定部材 1 0の上下を反転しバージンフィルム 7 を内面中央に配設することでも組み立て作業をし易くできる。したがってバージンフィルム 7 を仕切り部固定部材 1 0側に設ける場合も軟弾性仕切り部 4、または粘弾性仕切り部 5の外面 5 3 上に設ける場合に比し組み立て作業に大きな支障は生じない。以下仕切り部当接突起 9 7 の作用効果については挟持部当接突起 5 9 の説明と重複することから省略する。

10

【 0 0 4 1 】

図 6 は本発明粉状化粧料容器の使用説明図でアプリケーション 2 0 0 を軟弾性仕切り部 4、または粘弾性仕切り部 5の上方から押圧した状態を示す。図に示されるようにバージンフィルム 7 を除去された粉状化粧料容器の軟弾性仕切り部 4、または粘弾性仕切り部 5は、アプリケーション 2 0 0 の押圧により下方に湾曲し伸長される。軟弾性仕切り部 4、または粘弾性仕切り部 5には伸長方向に交差するよう形成される複数の切れ込み 5 1 が設けられ、大きな伸長で開穴され粉状化粧料 1 0 0 を外面 5 3 側に取り出す。他方、化粧時粉状化粧料容器を軽く振って攪拌する程度では粉状化粧料 1 0 0 が仕切り部 5 に加える押圧力は小さく切れ込み 5 1 は開穴されない。そのため粉状化粧料 1 0 0 は仕切り部 5 の外面 5 3 側に漏出することはなくなる。

20

【 0 0 4 2 】

以上説明のとおり、本発明粉状化粧料容器にあっては発明の効果の欄に記載する効果を有する。なお本発明について図面に示した特定の実施の形態をもって説明してきたが、本発明は図面に示したこれらの実施の形態に限定されるものではなく、各種キャップ、筐体の装着やパフなどのアプリケーションなどの収納を妨げるものではない。また本発明では固定部 9 5 のない略平面状の軟弾性仕切り部 4 あるいは粘弾性仕切り部 5 でも上縁 1 3 の外周側に係合する僅かな突起を形成する形状も広義には有天筒状である。そして同形状でも仕切り部材を化粧料収納室の外側部よりずれないようにできることは言うまでもないことである。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 4 3 】

【図 1】本発明粉状化粧料容器主要部の組み立て断面図である。

【図 2】本発明粉状化粧料容器の組み立て説明図である。

【図 3】仕切り部の切れ込み説明図である。

【図 4】バージンフィルムの平面説明図である。

【図 5】本発明にかかる第 2 の仕切り部固定部材の断面説明図である。

【図 6】本発明粉状化粧料容器の使用説明図である。

【符号の説明】

40

【 0 0 4 4 】

1 本体

4 軟弾性仕切り部

5 粘弾性仕切り部

7 バージンフィルム

9 仕切り部固定部材

1 0 仕切り部固定部材

1 1 化粧料収容室

1 3 上縁

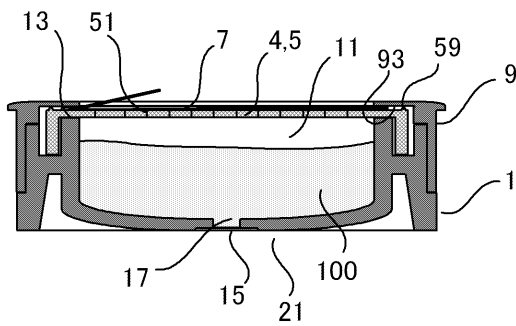
1 5 封止片

50

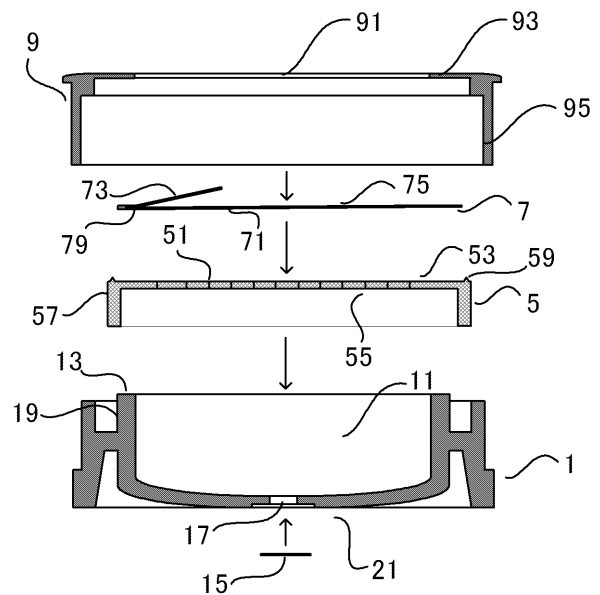
- 1 7 . . . 化粧料充填口
- 1 9 . . . 外側部
- 2 1 . . . 底部
- 5 1 . . . 切れ込み
- 5 3 . . . 外面
- 5 5 . . . 内面
- 5 7 . . . 収容室嵌合部
- 5 9 . . . 挟持部当接突起
- 7 1 . . . 被覆部
- 7 3 . . . つまみ部
- 7 5 . . . 表面
- 7 7 . . . 裏面
- 7 9 . . . 切れ目
- 9 1 . . . 開口部
- 9 3 . . . 挟持部
- 9 5 . . . 固定部
- 9 7 . . . 仕切り部当接突起
- 1 0 0 . . . 粉状化粧料
- 2 0 0 . . . アプリケーター

10

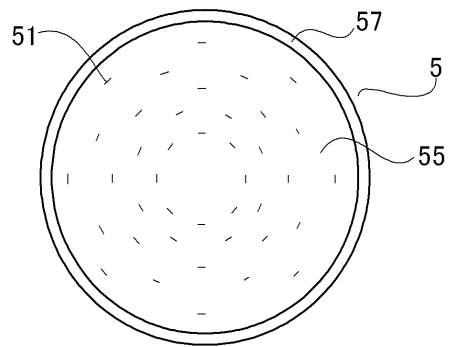
【図 1】



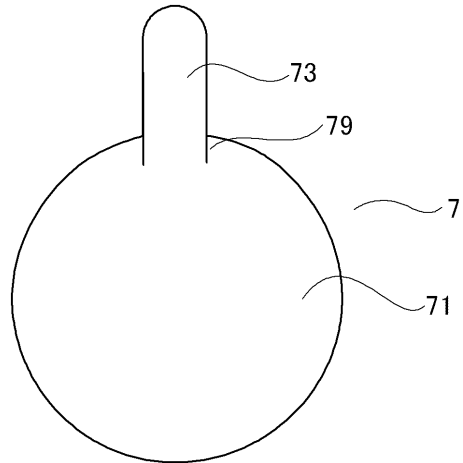
【図 2】



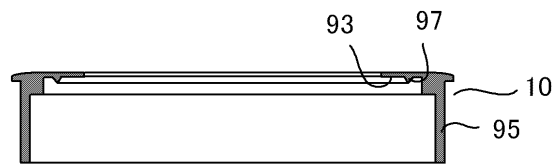
【図3】



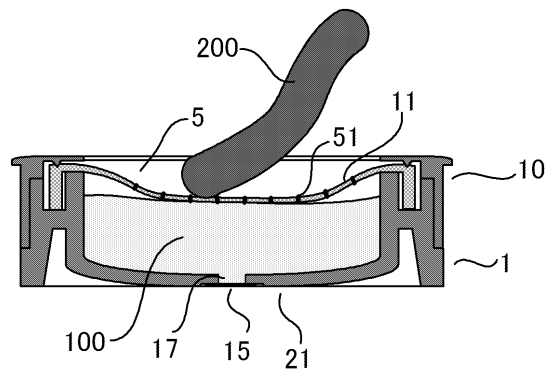
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(72)発明者 高橋 史典
東京都中央区銀座一丁目16番7号株式会社アルピオン内

審査官 近藤 裕之

(56)参考文献 特開平09-289917(JP,A)
実開平07-016708(JP,U)
特開2005-007093(JP,A)
特開平10-052315(JP,A)
特開2001-314227(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A45D 33/00